

論 文

精神分裂病患者の家族の入院時初期における 危機的状況への支援を考える

— Aguilera と Messick の問題解決モデルを用いて —

川尻 征子・押野 弘之・東脇 秀樹・三森多江子

田中 和世・土本 千春・平田万里子

(金沢大学医学部附属病院)

Family nursing for schizophrenic patients in crisis
— Using the Problem - Solving model of Aguilera and Messick —

Yukuko Kawajiri, Hiroyuki Oshino, Hideki Higashiwaki, Taeko Mitsumori,
Kazuyo Tanaka, Chiharu Tsuchimoto and Mariko Hirata
Kanazawa University Hospital

要 旨

精神分裂病患者の家族の入院時初期の、危機に至る過程と、その中で家族がどのようなニーズを持ち、それに対しどのような支援が必要かを導き出す為に、10事例の家族について半構成的面接を行い、Aguilera と Messick の問題解決モデルを用いて分析し、以下の結論を得た。

- ①全ての家族は入院に至るまで危機状態にあり、入院の決定により、低いレベルで均衡状態を得るが、多くの家族は更に危機状態に陥っている。
- ②全ての家族はバランス保持要因の2つないし3つの欠如を認めている。
- ③家族が面接により表現した入院時初期のニーズとして、病気を受け入れる為のニードが強く、それは、予後、治療過程における薬剤の副作用、対応の仕方についてであった。
- ④入院時初期は全ての家族が支援を必要としている。特に「病気についての正しい認識」「身近で活用できる相談相手の確保」「適切な対処方法」の3点を補強、強化することが必要である。